

『先進港』の神戸になるために

神戸大学海事科学部
4年 阪本 夏子

1

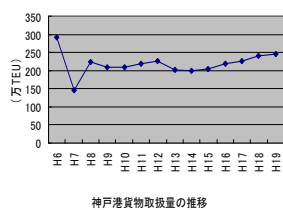
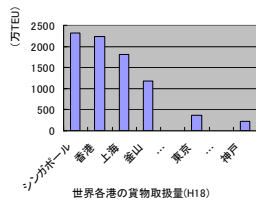
現在の神戸にとっての港とは？

- 憩いの場
- 街のシンボル
- 主な収入源(市内生産所得の約3分の1)
- 歴史的価値(開港142年)
- 震災を乗り越えた証

2

神戸港の現状

- 東アジアのハブ港としての機能が衰退
- 震災後の貨物量の減少



3

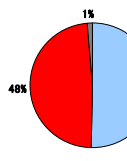
神戸市内小学生のアンケートより

神戸に港があることを
知っていますか？

コンテナを見たことがありま
すか？



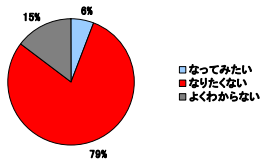
□ 知っている
■ 知らない
■ その他・無回答



□ ある
■ ない
■ その他・無回答

4

船に乗り、人や物を運ぶ人を船員といいます。
あなたは将来、船員になってみたいと思いますか？



□ なってみよう
■ なりたくない
■ よくわからない

5

将来に求める神戸港の姿

『先進港』となる！！

技術・貨物量＋市民性



発展的な港の在り方
真に社会的な港とは？

6

海陸の接点として本質的改善を

市民教育により
海上輸送に対する市民の意識を高める



モデルとなるまちづくり
世界に発信！！

7

提案『市民の心をもっと港へ！！』

神戸が行うcitizenship

港の価値や海上輸送の重要性を
全市民が認識

市民に密着した港へ

8

市民教育による成功例

世界のcitizenshipは・・・

- 田園都市の再実現(イギリス)
- ボランティア活動の推進
(イギリス、アメリカ)
- 社会人としての就業、自立の推進
(ドイツ)

9

市民教育実践のための具体策

- ① 触れる機会を設ける
- ② 一般開放のための整備
- ③ 小中学校の教育機会の活用
- ④ 広報誌の活用

10

① 触れる機会を設ける

- 見学会を実施
- 大規模・定期的に
- 広報誌・新聞・学校配布物・街頭広告等で告知、募集

現場を目にすることで
港の発展を意識する人々の裾野が広がる

11

② 一般開放のための整備

- 遊覧船乗船料の値下げ
- 施設・ルートの整備
(陸側からの自由な見学の推進)

自ら赴くことが出来る場所にすることで
身近な存在となる

12

③小中学校の教育機会の活用

- 見学を実施
- 実務者と子供の出会いを設ける

子供の頃に見たもの、感じたものは
将来に影響を与える



神戸港の発展を担う人材の育成

13

④広報誌の活用

- 港の知識・仕事・行事等を詳しく掲載
- 市民の港の現状理解

悪いイメージを払拭
過去からの慢心の除去
港に対する発展的思想の活性化

14

導かれる将来の神戸の姿

「日本は港なしでは生きていけない」
港に対する感謝

各々の分野でこの認識を生かし
世界に発信
世界の港町の将来のモデルへ

15

御清聴ありがとうございました

16